

<大会開催報告>

初年次教育学会 第11回大会 開催報告

大和田秀一
酪農学園大学

初年次教育学会第11回大会は、酪農学園大学(北海道江別市)において、2018年9月5日(水)、6日(木)両日にわたって大会企画シンポジウム、課題研究シンポジウム、自由研究発表各部会、ワークショップ、ラウンドテーブル等が執り行われるはずでした。参加者(登壇者)や理事の皆様、講師の皆様も心血を注いで準備をされていたことと拝察いたしますが、結局、初日午後の学会総会、大会企画シンポジウム、自由研究発表の8部会、そして情報交換会を行うことしかありませんでした。

前日の9月4日(火)に「非常に強い勢力」を持つ台風21号が四国に上陸、次いで関西や中京地方を襲いました。その後、深夜から5日(水)未明にかけて北海道南西部が暴風圏に入りました。関西地方ではご自宅が被害にみまわれた方、関西国際空港に閉じ込められ夜を明かした方がおられました。中京地方でも、身の危険を感じる風雨であったとお聞きしました。被害にあわれた方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

本学においても猛烈な風雨により、キャンパスに隣接して立ち並んでいたポプラの巨木が全て倒壊し架線を切断、停電となりました。札幌市内各所で幹線道路を倒木が塞ぐ光景が見られ、JRも全面運休となりました(今でも鉄道林に倒木の爪痕が見られます)。筆者は朝6時に札幌駅で全面運休を確認、地下鉄で新札幌へ移動し、そこからバスで本学に向かい7時半頃に到着、会場が復旧の見通しが立たない停電となっていることを現認しました。その間、藤田事務局長と電話連絡を取りながら(事務局長は同じホテルに宿泊中の藤本会長の判断を仰ぎつつ)、善後策を協議しました。その結果、午後の総会から大会を始めることが決定され、この時点で初日午前中のプログラム(ワークショップ5件、ラウンドテーブル1件)の中止が決まりました。幸い、本学の停電は10時半頃に復旧しましたので、受付を設営し午後から大会を取り進めることができました。大会企画シンポジウム(そして、大会テーマ)の詳細については、本誌の別途記事をご覧ください。

その夜の情報交換会は、新札幌のホテルエミシア札幌で、この悪条件の中(前日入りが困難だった上に、当日JRが動いていない)馳せ参じて下さった多数の皆さんのご参加を得て(108名)、賑やかに行われました。初年次教育と学生間の協同、酪農学園の沿革と協同精神との関わりを語った実行委員長のスピーチは長過ぎましたが、酪農学園銘のワインや本学乳製品工場謹製の乳製品を用いた料理は大変好評でした。この情報交換会で参加者の皆さんも実行委員も翌日の大会プログラムへ臨む英気が養われたと思われたのですが…

翌6日未明午前3時過ぎ、道央・胆振地方の住人、そして札幌に投宿中の参加者の皆さんは、大きな揺れで眠りを破られました。北海道胆振東部地震です。続いて20分後には全道約300万戸の停電、ブラックアウトに至りました。JRはもちろんのこと、地下鉄も動かず、道路信号も消えているのでバスも全面運休。会場に赴く交通手段がなく、辿り着

いたとしても停電。そのような次第で、早朝の段階で2日目の中止が決まりました。

大会2日目が中止となったのみならず、参加者の皆さんはここから大変な苦労をされました。投宿先から延泊を断られる、帰路の航空便を確保できない。避難所に身を寄せた方もおられます。台風の中、万難を排して参加して下さった方々がこのような憂き目にあってしまったこと、お迎えする側として何もフォローできなかったことに胸が痛みます。改めて心よりお見舞い申し上げます。

第11回大会は、学会設立10周年の記念すべき大会でしたが、このような残念な仕儀に終わってしまいました。大会参加者は合計217名で、内訳は事前登録者140名、当日参加登録者77名です。会員種別では、学会会員は136名、非会員48名、賛助会員企業からの参加18名、大会校からの参加15名でした。他に賛助会員企業でブース出展専従の方が1名おられました。昨年(第10回大会(中部大学))の参加者総数324名と比較すべくもありませんが、この悪条件の中、“四分の一”開催であったことからすれば、多数のご参加を得ることができたと言えるのではないのでしょうか。自由研究発表は59題が予定され、16部会を準備しましたが、初日午後の8部会のみが行われました。ワークショップは9個、ラウンドテーブルは3個の企画が準備されましたが、いずれも行われませんでした。課題研究シンポジウム「初年次教育の評価とは何か？」も3人の講師の方々が準備を進めて下さっていたにもかかわらず行うことができませんでした。初日の昼休みに予定されていたランチタイムPRは行うことができ、賛助会員企業4社が自社展示ブースへの来場をアピールしました。ちなみに展示ブースは、8社の賛助会員企業が出展されました。第11回大会より、初年次教育の実践成果を広く共有し普及を図るために「教育実践賞」が設けられ、申請のあった取組みのポスター発表が行われました。全14組の申請がありましたが、数組はポスター発表をすることができませんでした。当日は参加者による投票が行われ、それを参考にしながら審査委員会が厳正な審査を行い、結果は次回第12回大会で発表される予定です。

第11回大会は非常に強い勢力を持つ台風と大地震・ブラックアウトという二重の災難に見舞われましたが、あらかじめ危機管理マニュアルが整備されていたので、大会前日まではそれにしたがって比較的スムーズに対応を決めていくことができました。これも、理事をはじめとする本学会の皆さんの用意周到さ、お知恵の賜物です。しかし、今回の経験から開催地の天候のみならず、京阪神、中京圏、首都圏の天候と参加者の動線も考慮に加える必要性が明らかになったと思います。また、ICTや通信技術の発達に大いに助けられました。スマホやタブレットが無ければ、会員メーリングリストや学会ホームページから発信される情報を、参加者はどうやって確認することができたでしょうか。東日本大震災の際は各基地局のバッテリーが丸一日程度しかもちませんでした(その時、筆者は八戸にいました)、おそらくはより長寿命のバッテリーに置換されていたであろうことにも助けられました。

第11回大会は、実行委員11名(要旨集の奥付には載っていませんが北海道医療大学の会員お一人にもお手伝いいただきました)と学生スタッフ32名の体制で、準備と当日の運営に当たりました。委員長に至らぬ所を実行委員の皆さんがカバーして下さいましたし、地震の後、交通手段がなく会場に来ることができない委員長に代わって、近隣に居住する実行委員、信号が機能しないなか1時間近く車を飛ばして来た実行委員、徒歩で1時

間半かけてやって来た実行委員が会場の管理や参加者からの問い合わせにあたってくれました。学生スタッフも澁刺としたはたらきぶりで、参加者の皆さんからお褒めの言葉をいただきました。彼ら彼女らも今回の経験を通して、大いに成長できたものと思います。この場を借りて実行委員の仲間と学生スタッフに感謝の辞を送ります。当日の対応に何か不手際があり、参加者の皆さんにご迷惑をおかけしたことがありましたら、それはすべて委員長に帰すべきことです。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

次回の第12回大会は、2019年9月6日(金)～8日(日)の三日間(!), 東京八王子の創価大学で開催されます。関田実行委員長に第11回大会の経験を引き継ぐことに努め、微力ながら第12回大会のお役に立てればと思います。森の中に荘厳な建物が立ち並ぶキャンパスで皆様と再会することを楽しみにしております。

(初年次教育学会第11回大会実行委員長)